



勤労者医療総合センター  
関西労災看護専門学校紹介

NOW2023

## 勤労者医療総合センターについて



センター長 林 紀夫  
Norio Hayashi

当機構は政策の一翼を担う実施機関として位置づけられています。そのため、関西労災病院の組織も、「診療部門」と「勤労者医療総合センター」に分けられ、それぞれの政策課題に取り組んでおります。

勤労者医療総合センターは、1)勤労者医療推進室、2)治療就労両立支援センターから成り立っています。

### 1) 勤労者医療推進室 室長 泉 裕

これまでの病診、病病連携を積極的にすすめると共に、独立行政法人化を機会に他の労災指定医療機関や関連行政機関、また産業医や事業所が勤労者医療をすすめるにあたり、積極的な支援活動を行うことと定められています。新しく設置された医療連携総合センターと密接に連携をとって、これまでの業務を行いますので、さまざまな機会にご利用頂けたら幸いです。

### 2) 治療就労両立支援センター 所長 村田 幸平

平成16年4月に設置され予防医療活動を主として行ってきた「関西労災病院勤労者予防医療センター」は組織の改編に伴い、平成26年4月1日に「関西労災病院治療就労両立支援センター」として新たなスタートを切りました。

治療就労両立支援センターは「治療就労両立支援部」と「予防医療部」で成り立っております。

「治療就労両立支援部」においては、昨今の就労年齢の延長等による勤労者の高齢化や医療技術の進歩に伴って、病院等で治療を受けながら就労する勤労者の増加から、疾病の治療と仕事の両立支援(三次予防)への取り組みが求められています。そこで、当センターでは疾病の治療と仕事の両立支援(三次予防)について、機構の両立支援モデル事業として、平成26年度から「乳がん」、平成27年度から「糖尿病」の治療と仕事の両立支援の実践に取り組んでまいりましたが、令和元年度からは全ての疾病について治療と仕事の両立支援に取り組んでおります。

「予防医療部」においては、疾病の予防(一次予防)や憎悪の防止(二次予防)に関する予防医療活動としての研修会、各種測定・指導等の活動を行ってまいりますとともに、予防法の開発の研究に取り組んでいます。

治療と仕事の両立支援活動並びに予防医療活動を、微力ではありますが地道に活動してまいりますので、勤労者の方々及び地域の皆様におかれましては、今後とも当センターをご利用賜りますようお願い申し上げます。

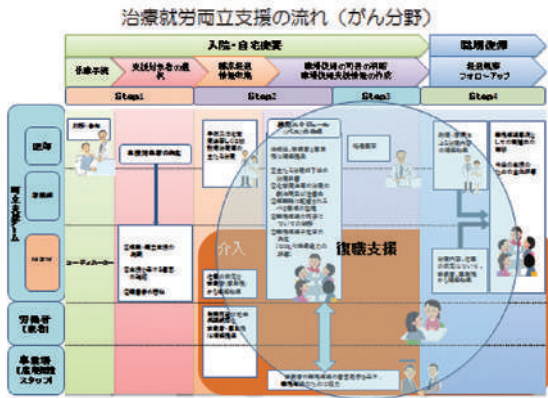
## 治療就労両立支援部

### 治療就労両立支援事業

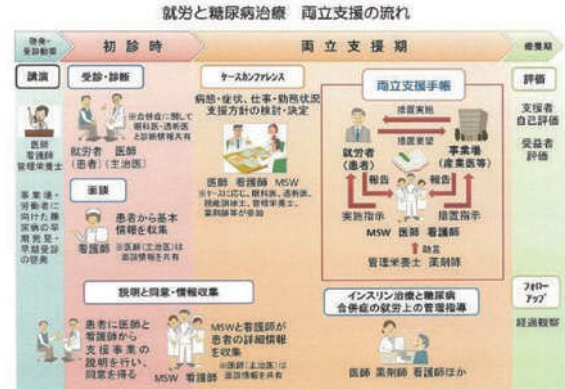
労働者健康安全機構では、平成26年度から、がん、糖尿病、脳卒中の罹患者及びメンタルヘルス不調者に対し休業等からの職場復帰や治療と仕事の両立支援への取組を行い、事例を集積し、医療機関向けのマニュアルの作成・普及を行っており、関西労災病院治療

就労両立支援センターでは、「がん分野(乳がん)」と「糖尿病分野」について、医療機関向けマニュアルの作成に向けた事例収集に取り組んでおりましたが、令和元年度からは全疾病に対して治療と仕事の両立支援への取組を行っています。

#### がん分野



#### 糖尿病分野



## 予防医療部

### 働く人々の健康づくりの支援

予防医療部では、勤労者の健康づくりをサポートするため、企業の産業保健スタッフと連携し、健康データの収集や介入研究を通じて、勤労者に増加している生活習慣病、腰痛・肩こり、メンタルヘルスの不調などを予防し健康を維持増進させるための生活指導・栄養指導・運動指導など指導システムの開発の研究を行っています。さらに医師、保健師等を対象とした研修会を行っています。

#### 【相談・指導】

医師・保健師・管理栄養士・理学療法士が保健指導・生活指導・栄養指導・運動指導等や講習会を行っています。

#### 【企業等との連携】

産業保健総合支援センター、企業、健康保険組合と連携し、企業等に出向き、生活習慣病予防、腰痛予防、メンタルヘルス等の講習会や介入研究を行っています。

また、保健師による禁煙指導、管理栄養士による健康的な食生活の改善、理学療法士による従業員の方々への体力測定、運動の実技指導及び職場環境調査も行っています。

#### 【予防医療ネットワーク】

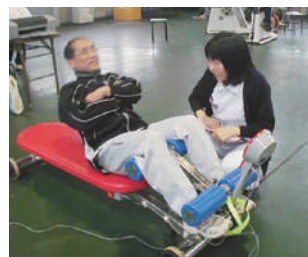
勤労者の予防医療活動に従事している保健師、看護師、管理栄養士、理学療法士等がネットワークを結成し、研修会の開催を行い知識向上、情報交換を行っています。



体組成測定



骨密度測定



体力測定



企業での講習会(運動)

## 開校50周年

— 豊かな人間性を培い、  
人々の健康に寄与する専門職業人を育む —

学校長 津田 隆之  
Takayuki Tsuda



本校は昭和48年(1973年)に開学し、令和5年(2023年)で開学50周年を迎えることとなりました。

この間1,512名の卒業生を社会に送り出し、令和5年4月には新たに第51期生を迎えました。本校が半世紀に渡り看護師育成の一端を担ってこれたことは、一重に労働者健康安全機構、関西労災病院関係者の皆様、また実習先の地域の医療機関、老健施設、訪問看護施設、尼崎市保育所・児童ホームなど多くの関係者の皆様のご理解とご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。

ここ数年の間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、分散登校・リモート授業・臨地実習制限や各種行事の中止・縮小・簡略化など、強力な感染対策が求められる中、教職員一丸となって学習環境の確保に努めてまいりました。その中で最も頑張ったのは学生達でした。この困難な状況の中で学生達は真摯かつ誠実に努力を積み重ね、看護師国家試験合格率はコロナ禍以降3年連続で100%となり、全国的にも高い合格率を達成しました。

本校は、労災病院で働く看護師の育成を使命としており、その特色として「勤労者医療」に関する学習があげられます。卒業生は関西労災病院をはじめ各労災病院ならびに地域の医療・保健施設で活躍しています。私どもは次の半世紀先の開校100周年に思いを馳せ、時代が要求する高度な医療に対応した看護師育成を行うべく改善・改革を継続してまいります。

### 教育理念

機構の使命に基づき、看護師として必要な専門知識・技術を修得すると共に、人間愛と生命に対する尊厳を基盤とした豊かな人間性を培い、勤労者を中心とした人々の健康に寄与できる専門職業人の育成をめざしています。

### 学生

1学年定員40名で、兵庫県内はもとより九州・四国からの入学生、男子学生や社会人の入学生など地域、経歴、年齢など様々ですが共に看護師をめざす仲間として互いに協力し勉学に勤しんでいます。学生は労災病院の奨学生となり、年間授業料相当の奨学金が貸与されます。

### 校舎および設備

校舎は3階建てで病院敷地内北東部に位置します。学生が主体的に学習できるよう視聴覚・情報科学室はインターネットを整備しています。看護実習室には看護技術の学習のためにモデル人形やシミュレーターを備えています。図書室には11,000冊の書籍と専門雑誌、DVDを取り揃え、図書の充実にも努めています。

### 講師・実習施設

当校の専任教員のほか、関西労災病院の医師・看護師、近隣の大学教授など充実した講師陣を誇っています。また臨地実習の大半を隣接する関西労災病院で実施できるという恵まれた環境にあります。その他、尼崎保育所、訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム、精神科病院のご協力により実習を行っています。



旧校舎(関西労災高等看護学院時代)



第2期生卒業式(S52年)



第14期生戴帽式(S63年)



現校舎(H5年竣工)



図書館



看護実習室



視聴覚・情報科学室